

令和7年度 富士工業技術支援センター研究発表会の御案内

静岡県工業技術研究所富士工業技術支援センター

富士工業技術支援センターでは、静岡県富士・富士宮地域をはじめとした企業の技術支援を目的として、製紙分野、CNF分野及び機械電子分野の研究開発を実施しています。この度、令和7年度の研究成果を皆様に紹介する、富士工業技術支援センター研究発表会を下記のとおり開催いたします。発表会では、浜松工業技術支援センターで実施した新成長戦略研究の成果に加え、川之江造機株式会社による特別講演も実施いたします。年度末で御多忙と存じますが、是非御出席くださいますよう御案内申し上げます。

記

- 1 日 時 令和8年3月4日（水）午後1時10分～午後4時10分
- 2 場 所 富士工業技術支援センター 大研修室（静岡県富士市末広20番地6）
(オンラインによる同時配信も実施)
- 3 内 容 特別講演『市場変化に応える商品開発とKAWANOEトータルエンジニアリング（仮）』
川之江造機株式会社 設計部 係長 毛利和也 様（仮）
研究発表
機械電子分野（富士2テーマ）、CNF分野（富士3テーマ）、
製紙分野（富士3テーマ）、新成長戦略研究（浜松1テーマ）
- 4 参 加 費 無料
- 5 申込方法 ふじのくに電子申請システムによる電子申請
申込みページの説明を御確認いただき、案内に沿ってお申込みください。
【申込締切】令和8年3月3日（火）

<申込URL>

https://apply.e-tumo.jp/pref-shizuoka-u/offer/offerList_detail?tempSeq=19129

<スマートフォン用2次元コード（申込ページへのアクセス）>



担 当 技術支援担当 小泉
電 話 0545-35-5190
メ ー ル fujikougi@pref.shizuoka.lg.jp

令和7年度 富士工業技術支援センター研究発表会 プログラム

令8年3月4日（水）富士工業技術支援センター（オンライン同時配信）

13:10-13:15 開会挨拶 富士工業技術支援センター センター長 田中 伸佳

講演番号	時間	タイトル	発表者（所属）及び概要
1	13:16	機械電子科の紹介	機械電子科長 望月 建治 当センター機械電子科の担う業務について紹介します。特に、企業様に廉価で御利用いただける試験機器類や、当科の取り組む研究の方向性等についてお話しします。
2	13:22	AIを活用した再生紙工場での白色度予測	機械電子科 齊藤 和明 本研究は、AIをものづくりに活用することで、再生紙工場の処方の最適化や品質安定化といった効率化を目的としました。DX推進の一助となるよう、再生紙工場のインライン型測定器から得られる様々な操業データを用いて、製品の白色度を予測する機械学習モデルを作成・評価したので、結果を報告します。
3	13:33	骨格情報を利用した乳牛の行動・個体特性解析	機械電子科 井出 達樹 日本の酪農において、1戸当たりの乳牛の飼育頭数の増加に伴い、ICTによる効率的な個体管理が求められています。本研究では、画像解析による個体管理の自動化を目指し、乳牛の骨格情報を検出することで、乳牛の行動解析および個体特性の解析を行いましたので、その結果を報告します。
4	13:44	新成長戦略研究の紹介	浜松工業技術支援センター 研究統括官 小松 剛 (Web) 静岡県ではH23年度から新成長戦略研究を実施しています。この事業では、研究計画の策定から成果の社会還元まで、産学官によるプロジェクトチームを構成して戦略的に研究を進めています。
5	13:50	新成長戦略研究 金属積層造形に関する静岡県の取組みとドイツの状況	浜松工業技術支援センター 材料科 田光 伸也 (Web) R5～R7年度に静岡県として取組んでいる新成長戦略研究の概要と、これまでの技術調査から特にドイツにおける積層造形への取組み状況を浜松工業技術支援センターから紹介します。

休憩			
7	14:12	特別講演『市場変化に応える商品開発とKAWANOEトータルエンジニアリング(仮)』	川之江造機株式会社 設計部 係長 毛利和也 様(仮) 市場変化に応えるべくパイロット設備を活用した新製品開発からメンテナンスサービスまで「KAWANOEトータルエンジニアリング」としての取り組みを紹介いたします。
8	14:43	製紙科の紹介	製紙科長 田村 克浩 製紙科の業務内容と現在取り組んでいる研究課題の概要について紹介します。業務内容については、機器の紹介と外部団体との連携について紹介します。
9	14:49	古紙処理工程における効果の高い低密度化手法の追究(第2報)	製紙科 齊藤 将人 製紙原料を加温処理すると紙が低密度化することを確認していますが、温度の影響に関する整理が十分ではありません。今回は、冬と夏の製造現場を想定し、操業開始時点という、温度が異なる条件下で処理温度を変え、低密度化効果の違いを調べた結果について報告します。
10	15:00	リファイナーCNFを使った高機能シート試作装置による抄紙テストについて	製紙科 齊藤 将人 当センターのテスト抄紙機である高機能シート試作装置を用いて、CNF内添紙を試作しました。CNFは、当センターが所有するリファイナーを用いて作製したリファイナーCNFを使用しました。その内容について紹介します。
11	15:11	廃棄コットンの古紙代替利用に関する研究	製紙科 伊藤 彰 廃棄コットンを古紙原料の代替として利用するため、コットン生地の解纖方法を検討しました。パルプと同様の纖維に解纖したコットンと古紙を用いてトイレットペーパーを抄紙したところ、実用的な物性を有するものを作製することができました。
12	15:22	CNF科の紹介	研究統括官兼CNF科長 深沢 博之 当センター内に設置されているCNF研究開発センターでは、共同研究室、静岡大学サテライトオフィス、富士市CNF連携拠点などを企業の方に活用していただき、効率的にCNF利用製品の開発が進むように技術支援を行っています。また、機械解纖及び化学解纖CNFの無償サンプル提供による研究開

			発支援なども行っています。
13	15:28	低コストを実現した樹脂用途 微細化セルロース粉体の開発	CNF科 小坪 慎太郎 現在、セルロース系材料を配合した樹脂材料は環境負荷の低減が期待されていますが、コストの高さが課題です。本研究ではこの課題解決を解決し、持続可能な材料開発に貢献するため、乾式処理でセルロース粉体を製造し、さらに安価な製紙薬品を用いた樹脂材料を作製しました。従来品と比較し、低コスト化が実現可能であることを確認したので、本成果を報告します。
14	15:39	製造業の未利用纖維を活用した纖維/樹脂複合体の開発	CNF科 渡邊 雅之 コーヒーフィルタの製造工程では、原料への再投入が困難な損紙が大量に発生しており、その有効活用が課題となっています。本研究では、この未利用バイオマス資源に着目し、損紙から高付加価値な纖維/樹脂複合体を製造する技術開発を取り組んでおります。今回はその中で得られた物性等の基礎的な知見を紹介します。
15	15:50	自動二輪車向けセルロースフィラー複合樹脂の開発	CNF科 山崎 利樹 本研究では、セルロースフィラーを混合することで、機械的物性を向上させるだけでなく、カーボンニュートラルにも対応した樹脂材料の開発を目指しています。将来的には、従来用いられている樹脂材料の代替を目指しています。本発表ではセルロースフィラー、相溶化剤及び樹脂との混練方法について紹介します。

16:06 閉会挨拶